

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	第一三共プロファーマ株式会社平塚工場第二試験棟	階数	地上5F
建設地	神奈川県平塚市新町622-1外24筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	180人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年4月2日
敷地面積	4,724 m <sup>2</sup>	作成者	清水建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	1,904 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月2日
延床面積	9,246 m <sup>2</sup>	確認者	清水建設株式会社一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE=2.1** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.5

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>高効率な設備機器の導入、節水器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。</li> <li>高断熱性能の「断熱サンドイッチパネル」を採用し、さらに断熱性能向上のため、室内側に断熱材吹付、Low-Eガラスを採用している。</li> </ul>		
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> -
<b>LR1 エネルギー</b> ・主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・再利用可能なユニット部材や躯体に高強度材料を採用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・敷地内に屋外広告照明の設置は避け、周辺の光害抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される